

神奈川県微生物検査情報

<http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/>

神奈川県衛生研究所

第 150 号

(2005年6月)

平成 17 年 8 月 31 日発行

速報：神奈川県における流行性耳下腺炎の流行

- ・ 発生動向の推移
- ・ ウイルス分離状況

速報：腸管出血性大腸菌感染症発生届け出に伴う接触者調査（分室対応）

ヒト由来細菌情報

患者発生に伴う検査を実施したところ、腸管出血性大腸菌が検出された。

食品由来細菌情報

病原菌は検出されなかった。

環境由来細菌情報

県内定点 10 箇所の河川水調査で、O1&O139 以外のコレラ菌、サルモネラ菌が検出された。

集団発生情報

県域での発生
(細菌)

- ・ 食中毒事例が 2 件発生した。それぞれカンピロバクター (*C. jejuni*) を原因とする食中毒 (患者 8 名)、ウエルシュ菌 (*C. perfringens*) を原因とする食中毒 (患者 8 名) であった。

(ウイルス)

- ・ 食中毒様胃腸炎の発生は 3 事例あり、ノロウイルスは検出されなかった。
- ・ 感染性胃腸炎の発生は 1 事例あり、ノロウイルスが検出された。

ウイルス情報

検査定点からの依頼によるもの

- ・ 6 月に採取された検体から検出されたウイルスは、ムンプスウイルスが 10、コクサッキーウイルス A6 型が 9、コクサッキーウイルス A16 型が 4、エコーウイルス 3 型が 2、コクサッキーウイルス A10 型、エコーウイルス 6 型、アデノウイルス 2 型、アデノウイルス 3 型および単純ヘルペスウイルス 1 型が各 1 であった。

検査定点以外の医療機関からの依頼によるもの

- ・ 無菌性髄膜炎患者からエコーウイルス 6 型が検出された。

(微生物部・地域調査部)

神奈川県における流行性耳下腺炎の流行

・発生動向の推移

神奈川県（横浜市、川崎市を除く）での流行性耳下腺炎発生状況（図1）は、2004年第22週まで定点あたり患者報告数1.0未満の低値で推移していたが、第23週（定点あたり1.15）から第29週（1.51）をピークとして第31週（1.38）まで定点あたり1.0以上で推移した。その後、第43週（1.11）に再び1.0を超え、以降2005年第21週（1.19）まで1.0を超える週が多く推移した。2005年第22週より患者数が増加し（1.58）、第25週（2.28）以降第29週（2.63）をピークとして第30週（2.27）まで定点あたり2.0を超え、2004年同時期の約2倍の報告数が続いたが、第31週には定点あたり1.94と報告数が減じ、終息に向かうと思われる。

報告患者の年齢は、第1週～第31週現在まででは4歳（660）、5歳（654）、6歳（593）、7歳（452）、3歳（437）の順に多く、この年齢層で70.5%を占めている。第20週～第31週の県の平均定点あたり報告数は2.18で、大和、厚木、横須賀市および藤沢地区がこれを上回った。

臨床症状は、耳下腺や顎下腺の腫脹のほかに比較的高熱を呈する傾向にあり、幼稚園、小学校での流行も発生している。

・ウイルス分離状況

2005年5月10日（第19週）から7月28日（第30週）までに採取された25名の流行性耳下腺炎患者（いずれも耳下腺、顎下腺の腫脹を認める）の咽頭拭い液検体についてRD-18S、HeLa、Vero、HEp-2、GMK、LLC-MK2およびVeroE6の7種類の細胞を用いてウイルス分離を実施した。Vero、LLC-MK2およびVeroE6細胞には、ムンプスウイルスやパラインフルエンザウイルスなどのパラミクソウイルス科のウイルスを分離するためにトリプシンを添加した維持培養液を使用した。ムンプスウイルスの同定は、直接蛍光抗体法（デンカ生研）により行った。

25検体中17検体よりムンプスウイルスを分離した（陰性7検体、検査中1検体）。VeroE6細胞で17検体すべて、Vero細胞では14検体、LLC-MK2細胞では2検体から分離された。細胞変性効果（CPE）はいずれの細胞でも明瞭であり、トリプシンを添加しなかった維持培養液下でも15検体から分離された（VeroE6細胞のみで実施）。ムンプスワクチン接種歴のある3名のうち、4年前と8年前に接種した2名からはムンプスウイルスが分離され、接種時期が不明で軽症であった4歳児では分離陰性であった。ムンプスワクチンは生後1年以上からの接種が推奨されていることから前2者よりは接種後の経過が短いものと推測される。

また、ムンプスウイルスが分離された2名（1名は咽頭痛等上気道症状を呈する）からRD-18S、HeLa細胞にてエコーウイルス3型も分離された。

流行性耳下腺炎は、診断が容易であることやほとんどの場合がムンプスウイルスであることからウイルス分離検査が行われることは少ない。しかし、今回ワクチン接種歴があるにもかかわらず耳下腺腫脹を呈し、ムンプスウイルスが分離された症例や上気道症状を呈する症例からエコーウイルスが分離されたことから、このような症例については種々のウイルスを対象とした分離検査が必要と思われる。（エイズ・インフルエンザウイルスグループ 齋藤隆行）

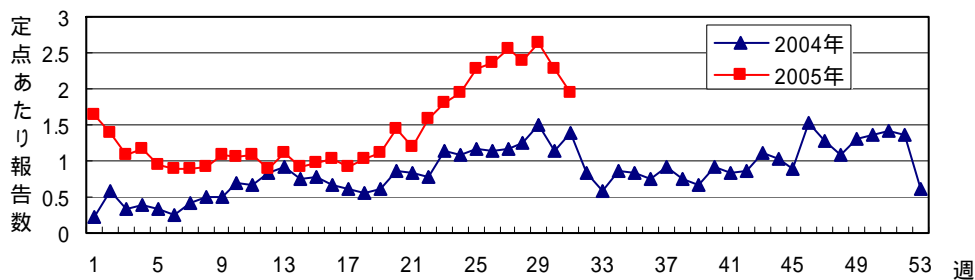


図1 流行性耳下腺炎の定点あたり報告数の推移

速報

腸管出血性大腸菌感染症発生届け出に伴う疫学調査（分室対応）

2005年8月2日現在で、神奈川県（県保健所管内）で35件の腸管出血性大腸菌の発生がありました。患者22件、保菌者13件の発生でした。これらに対して実施した衛生研究所分室（藤沢、小田原、茅ヶ崎、厚木）で行った結果は次のとおりでした。

届け出件数	検査実施数(検体数)	集団対応の接触者調査	検出件数
22	606	565(内数)	13

検査実施には、菌の陰性確認検査実施も含む。

平成17年の発生状況（健康増進課 感染症情報ホームページより）

<患者>

届出年月日	菌型	患者				届出保健所
		年齢	性別	症状		
				発症時	現在	
4月19日	O157	10歳未満	男	下痢、嘔吐、発熱	無	茅ヶ崎保健所
5月16日	O157	10歳未満	男	下痢、粘血便	無	大和保健所
5月18日	O157	50歳代	女	下痢、血便	無	茅ヶ崎保健所
5月24日	O157	10歳未満	女	腹痛、下痢、発熱	無	茅ヶ崎保健所
6月9日	型別不明	20歳代	女	下痢、吐き気、微熱	無	藤沢保健所
6月13日	O157	20歳代	男	発熱、下痢	無	厚木保健所
6月23日	O157	20歳代	女	下痢、腹痛	無	厚木保健所
7月8日	O157	10歳代	女	下痢、血便、吐き気	無	藤沢保健所
7月8日	O157	10歳代	女	下痢、腹痛	無	茅ヶ崎保健所
7月9日	O157	60歳代	女	下痢	無	藤沢保健所
7月12日	型別不明	80歳代	女	下痢、血便	無	大和保健所
7月14日	O157	20歳代	女	血便、腹痛、下痢	無	藤沢保健所
7月16日	O157	10歳未満	女	下痢、血便、腹痛	無	小田原保健所
7月22日	O26	10歳未満	男	腹痛、下痢	無	平塚保健所
7月22日	O157	40歳代	男	下痢	無	小田原保健所
7月22日	O157	20歳代	女	軟便	無	平塚保健所
7月25日	O157	10歳未満	男	腹痛、下痢	無	津久井保健所
7月27日	O157	10歳未満	男	水様便	無	大和保健所
7月27日	O26	10歳未満	男	下痢、腹痛	無	平塚保健所
7月27日	O157	10歳代	女	腹痛、血便	無	小田原保健所
7月29日	O26	10歳未満	男	下痢	無	津久井保健所
8月2日	O157	10歳代	男	腹痛、血便	無	秦野保健所

菌型別発生状況(平成12年～)

年	件数	患者数	保菌者数
12	114件	37件(O157:35件、O26:2件)	77件(O157:77件)
13	118件	86件(O157:78件、O26:7件、O114:1件)	32件(O157:32件)
14	45件	O121:1件)	10件(O157:10件)
15	29件	O111:1件、不明:1件)	8件(O157:8件)
16	53件	25件(O157:16件、O26:7件、O121:1件、判別不能1件)	28件(O157:25件、O26:3件)
17	35件	22件(O157:17件、O26型:3件、別不明2件)	13件(O157:8件、O26型:5件)

(地域調査部・企画情報部)

表1 ヒト由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別) 平成17年6月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数	374	415	666	1111	231	92	308	333	209	291	183	4213	6	4219
海外渡航者数					1							1		1
腸管出血性大腸菌									1			1		1
カンピロバクター ジェジュニー								8				8		8
ウエルシュ菌								8				8		8

ヒト由来の検体4219件を検査した。

平成17年6月、大和保健所で腸管出血性大腸菌0157の検査を実施したところ、患者から腸管出血性大腸菌0157が検出された。

厚木保健所で食中毒事例が2件発生し、1事例ではヒト検査検体、環境検査検体について検査を行ったところ、患者8名からカンピロバクター (*Campylobacter jejuni*) が検出された。もう1事例ではヒト検査検体、食品検査検体、環境検査検体について検査を行ったところ、患者8名からウエルシュ菌 (*Clostridium perfringens*) が検出され、これはエンテロトキシン陽性であった。

表2 食品由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別) 平成17年6月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数	4	16	18	25	14	12	11	44		12	21	177	55	232

食品由来の検体232件を検査したところ病原菌は検出されなかった。

表3 環境由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別) 平成17年6月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数	1		7	11	2	2		20				43	31	74
01&0139以外コレラ菌													7	7
サルモネラ 04群													2	2
サルモネラ 08群													1	1

県内定点10箇所の河川水腸管系病原菌調査を行ったところ 01&0139以外のコレラ菌7件、サルモネラ04群2件(血清型Typhimurium、型別不能)、08群1件(血清型Hadar)が検出された。

表4 ウイルス検出状況(月別) - 平成16年6月～平成17年6月 -

疾患名 検出ウイルス	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成16年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	平成17年累計
インフルエンザ AH3								159	14	47	13				74
インフルエンザ B								3	21	75	9				105
パラインフルエンザ 3		1						1							
R S						1	2	3							
ポリオ 3													1		1
コクサッキー A2		3						3							
コクサッキー A4		4	1					5							
コクサッキー A6	2	1						3					2	9	11
コクサッキー A9	1							1							
コクサッキー A10														1	1
コクサッキー A12		1						1							
コクサッキー A16		3	2		2	2		9		1				4	5
コクサッキー B1			2					2							
コクサッキー B4			1					1							
コクサッキー B5			1				1	2							
エコー 3														2	2
エコー 6			1					1						2	2
エコー 18		4						7							
エンテロ 71													1		1
ムンプス								1					5	10	15
アデノ 2		1						1		1			1	1	3
アデノ 3	1	3			1	1	2	9	3					1	4
アデノ 4											1				1
アデノ 5													1		1
アデノ 40/41	1							1							
単純ヘルペス 1									1					1	2
ロ タ								3		1	12	1	12		26
ノ 口	2		3		27	6	180	332	101	21	23	2	17	7	171
サ ボ													31		31
未 同 定		1	2					3			1			1	2
合 計	7	22	13	0	30	10	185	551	140	146	59	3	71	39	458

表5 ウイルス検出状況（疾患別） - 平成17年6月

疾患名 検出ウイルス	急性 脳 炎	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	感 染 性 胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	イン フル エン ザ 様	無 菌 性 髄 膜 炎	食 中 毒	そ の 他	合 計
取り扱い検査件数	1	1	3	21	13	9	12		2	46	3	111
コクサッキー A6					2	7						9
コクサッキー A10						1						1
コクサッキー A16					4							4
エコー 3							2					2
エコー 6									2			2
ムンプス							10					10
アデノ 2			1									1
アデノ 3			1									1
単純ヘルペス 1						1						1
ノロ				7								7
未 同 定					1							1

集団発生

- ・平成17年6月、県域で食中毒様事例が3例あり、患者便23検体および調理従事者便23検体の検査を行ったが、ノロウイルスは検出されなかった。
- ・感染性胃腸炎の集団発生は1事例あり、患者便14検体中7検体からノロウイルスが検出された。

発生動向調査の病原体検査定点からの依頼によるもの

- ・咽頭結膜熱患者の咽頭拭い液3件を検査したところ、アデノウイルス2型および同3型各1株が分離された。
- ・手足口病患者の咽頭拭い液13検体を検査したところ、コクサッキーウイルスA16型3株、同A6型2株が分離された。
- ・ヘルパンギーナ患者の咽頭拭い液9検体を検査したところ、コクサッキーウイルスA6型7株、同A10型1株、単純ヘルペスウイルス1型1株が分離された。
- ・流行性耳下腺炎患者の咽頭拭い液12検体を検査したところ、ムンプスウイルス10株 およびムンプスウイルス分離検体と重複してエコーウイルス3型2株が分離された。
- ・無菌性髄膜炎患者の髄液1検体を検査したところ、エコーウイルス6型が分離された。

発生動向調査の病原体定点以外の医療機関からの依頼によるもの

- ・無菌性髄膜炎患者1件3検体（髄液、咽頭拭い液、便）について検査したところ、髄液および便からエコーウイルス6型が分離された。